

韓国農林畜産食品部プレスリリース 2021年5月6日10時01分

## 養豚農場、アフリカ豚熱（ASF）の発生による防疫強化対策推進

<https://www.mafra.go.kr/mafra/293/subview.do?enc=Zm5jdDF8QE8JTJGYmJzJTJGbwFmcmEIMkY2OCUyRjMyNzA2OCUyRmFydGNsVmll dy5kbyUzRg%3D%3D>

### 1. 発生状況

□ASF 中央事故収拾本部（以下「本部」）は、江原道寧越（ヨンウォル）郡の黒豚農場で、昨年10月9日に華川（ファチョン）郡の養豚農場で最後に発生して以降、ASFが7ヶ月ぶりに再び発生したと発表した。

○5月4日、江原道の動物衛生試験所で、野生イノシシ防疫帯の農場について豚の死体を検査する過程で、母豚2頭の発生疑いを発見。

○農林畜産検疫本部で精密検査を行った結果、本日（5月5日）ASFと確定した。

□今回の発生農場は、既に野生イノシシでASFが発生している地点と隣接しており、これまで圏域別（江原南部）豚・糞尿の移動制限と農場内畜産車両の進入制御などの集中管理を行ってきた。

○これまで寧越郡では、野生のイノシシで11件ASFが発生し、今回の農場との最近接発生場所は、約1.2kmに位置（2021年2月25日発生）している。

### 2. 初動措置

□本部は ASF 疑い家畜発生から迅速な初動措置を介して拡大防止のために総力対応している。

○ASF 発生農場の移動制限、農場主などの出入り制限、飼育豚（黒豚401頭）の殺処分を実施中であり、本日中に完了する計画だ。

\*養豚農場発生時の対応：発生農場の半径500m殺処分、防疫帯10km内精密検査実施（3km内で陽性追加検出時に既存の防疫帯維持）

○本部は、5月5日午前11時から5月7日午前11時までの48時間、京畿道・江原道・忠清北道の養豚農場、畜産施設（屠殺場・飼料工場など）、畜産車両の一時移動停止命令（Standstill）を発令した。

○防疫帯（発生農場の半径10km以内）の農場4戸\*には、移動制限と精密検査を実施した結果、陰性と確認され、疫学関連農場（7戸）と寧越など隣接する12市郡の農場（170戸）にも予察と一斉の精密検査（5月5日～5月12日）を実施中である。

\*防疫帯の農場（4戸）：500m飼育農場無し、500m～3km1戸1500頭、3km～10km3戸2700頭

○寧越郡内の残りの養豚農場（5戸）には、豚の移動の中断、糞尿搬出禁止と専用飼料車両

の指定・運営等の措置を講じた。

○利用可能な消毒資源を総動員して発生農場の進入路・道路などの集中消毒を実施しており、農場周辺に生石灰も塗布するようにした。

\*（既存）寧越など12個の隣接市郡（170戸）に消毒資源46台投入→（強化）57台投入

### 3. 今後の防疫対策

□本部は今日、首相職務代行主催のASF関連閣議で、ASFの追加発生防止のための防疫対策をさらに強化することにした。

□（発生農場関連）寧越郡内で運営されている畜産車両を指定して、指定車両外の畜産車両は進入を禁止し、発生農場が豚を出荷した屠畜場（平昌郡）は消毒専門官（1人）を派遣して、環境検査と毎日の消毒を実施する。

□（汚染源集中消毒）利用可能な広域防除器と消毒車などを総動員して、最近野生イノシシで発生した地域近くの道路・河川・畜産施設に集中消毒を大々的に実施する。

□（農場ブロック防疫）養豚農場ブロック防疫施設の改善と、養豚農場従事者・媒体を通じた汚染源の流入を防止するための農場ブロック防疫を強化する。

○汚染源の農場流入を遮断するための防疫施設の改善を推進して、国境地域の農場（360戸）内の車両進入を制御するための施設の改善を完了し（2020年12月）、ブロック防疫強化のための8大重点防疫施設の設置は速やかに仕上げている。

- 残りの地域も年末までに段階的に施設の改善と8大防疫施設の設置を推進する。

○農場従事者・媒体を通じた汚染源の農場の流入遮断のため、危険地域養豚警鐘兼業農家（197戸）を対象に、防疫実態持続点検（月2回以上）する計画だ。

- 農場従事者（外国人従事者を含む）を対象に、文字・電話予察を介して母豚舎出入り人員の最小化など防疫上の注意を毎日案内・推進する。

- 畜産環境・消毒の日（毎週）運営し、農場内ねずみ・虫除けキャンペーンを実施し、害虫が多くなる5月から危険地域を中心に噴霧消毒を集中実施する予定である。

□（イノシシ管理）発生農場周辺フェンスを緊急点検し、野生イノシシ死体の調査と捕獲を強化する。

○発生農場周辺10kmをイノシシ重点予察区域に設定し、環境部・自治体の調査チーム（35人）を投入して、野生のイノシシ死体に集中調査を実施する。

○また、発生農場近くの2次フェンスと周辺広域フェンスを集中点検と整備・補修し、調査時のフェンス点検も並行してフェンス管理を強化する。

○併せて、ドローン – サーモグラフィカメラを利用して、発生農家周辺の野生イノシシ生息個体数を確認し、発生農場近くに捕獲ツールを移動設置するなどの取得を強化する。

#### 4. 要請事項

□キム・ヒョンス本部長は、緊急事態会議を開催し、「養豚農場の母豚管理の強化とともに、農場・畜産関連施設での消毒と生石灰帯の構築、畜舎出入りの際に手洗い・長靴履き替えなどの基本的な防疫上の注意を遵守すること」を要請した。

○また、「関係省庁が協力して、野生イノシシの進入防止のためのフェンス点検とイノシシ捕獲及び死体の調査を入念に実施してほしい」とも呼びかけた。